

第5次西区地域福祉活動計画 パブリックコメント回答

No.	ご意見	本会の考え方
1	第4次計画期間において、対面によるイベント実施できなかったのはやむを得ないことだった。第5次計画期間においても感染症の流行等の理由で推進できない可能性もあるため、有事に備え、計画の具体的な進め方について明記した方がいいのではないか。	計画期間（令和6年度～10年度）において、単年度ごとの推進（事業）計画を立案することにより、実状に応じた計画推進に努めてまいります。
2	住民一人ひとりが一緒になって地域をつくっていくという「地域共生社会」づくりの考え方が大切であり、それらを踏まえ、全体目標を「誰も取り残さない、地域で暮らすみんながつながり、自分らしく暮らせる西区にしよう」にしてみようかどうか。	ご意見のとおり、本計画において「つながり」は大きなテーマとなっております。全体目標にある「誰も取り残さない」の観点からのつながりに注力し、ご意見にある「住民一人ひとりが地域を一緒につくっていく」意識をもって計画を推進してまいります。なお、Aチームの基本目標を「つながり支えあう地域づくり支援」に名称変更し、「つながり」というワードを使わせていただきます。
3	能登半島地震で、改めて地域のつながり、コミュニティの大切さを痛感した。近年、西区は転入者の増加に伴い、新旧住民が混在してきており、より地域のつながりをつくる事業が、今後、より大切になると思う。	ご意見いただいた事項については、「目標4 垣根のない地域住民等の顔の見える関係づくり」の項目で取り組んでまいります。
4	公的施設、社会福祉法人、NGO・NPOなど西区にある様々な社会資源、また、部落差別解消に取り組む西文化センターについて第5次計画で明記することで、住民自身が困ったとき、相談したいことなど、必要な支援にたどり着けるような体制づくりを進めていただきたい。	ご意見のとおり、住民の方等に困りごとが生じたり、支援が必要になった場合に、いかにして福祉に関する社会資源につなげていくかは、本会としても重要な課題と理解しており、「第5次活動計画策定のポイント ①第4次活動計画の”継承”」にも明記し、引き続き取り組んでまいります。
5	コロナ禍で一番役に立ったのは、地域の女性同士のネットワークだった。この経験は、「地域共生社会づくり」に活かしていけると思う。	ご意見のとおり、地域でのつながり（ネットワーク）づくりは非常に大切なことであると理解しております。本計画推進を通して、「地域共生社会づくり」にも取り組んでまいります。
6	第5次計画に記載されている項目が、全体的に難しい文言が記載されているので、文言の説明を丁寧にしていただきたい。	来年度（令和6年度）、本計画の概要版を作成する予定ですので、ご意見を踏まえ、多くの西区関係者に計画内容をご理解いただけるよう工夫してまいります。